

親子で寄席の魅力を堪能

寄席芸能公演

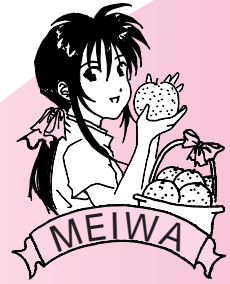


笑いを誘った林家木久蔵さん

文化庁および町等主催の本物の舞台芸術体験事業「寄席芸能公演」が8月28日、ふるさと産業文化館で開かれました。
公演は、舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、子どもたちに芸術を楽しむでもらうのが目的。出演者の林家木久蔵・林家二楽・林家しん平・春風亭一朝・柳貴家小雪さんら9人が落語や大神楽、紙切りの芸を話術巧みに演じ、会場は笑いの渦に巻き込まれていました。
来場者は「寄席の面白さを堪能し、親子で楽しく過ごすことができました」と話していました。



小学生が寄席ばやしの実演を体験



まちのわだい

積極的に笑顔で生徒や家族と交流

中学生国際交流壮行会

中学生国際交流研修事業の壮行会が8月2日、中央公民館で開かれ、引率する齋藤町長をはじめ約40人が出席して、オーストラリアのコーローハイスクールへ派遣される2・3年生10人の生徒を激励しました。
町では、豊かな国際感覚を身につけた生徒育成のため今年で6回目の開催。派遣生徒代表の関根佐代子さんが、言葉や生活習慣などが異なりますが積極的に笑顔で生徒や家族に接し、たくさん知識を得て帰国したいです」と発表したほか、生徒全員が海外に向かう抱負を語りました。



自分の考えを発表する生徒

親子でロボット工作に挑戦

館林商工高ものづくり体験教室



上手に出来るといいね...

館林商工高等学校では8月11日、ものづくり体験教室を開き、小・中学生と父母の62人がミニサッカーロボット工作や住宅の建築模型製作を行いました。
地域に開かれた学校づくりを推進している同校では、ものづくりの楽しさを味わってもらおうと初めて開催。参加者は、同校の教諭や生徒から指導・補助を得ながら6本足で歩行してボールをシュートできるロボットなどを製作。小学生は「小さな部品の種類が多く、組み立てが難しかったけれど楽しく作れました」と話していました。